

令和6年度（2024年）職員からの事業所自己評価の集計結果（公表）

公表：令和7年3月

事業所名：仙台市サンホーム

職員回答数 17名 回答数17枚 回収率 100%

必修項目	○	チェック項目	はい	いいえ	未記入	工夫している点 (現状および課題や改善すべき点含む)	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容または改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10 (59%)	6 (35%)	1 (6%)	<ul style="list-style-type: none"> ・設置基準にはあっているがもっとスペースが広いほうが安全かつ良いサービスが提供できる。 ・子どもに合わせて個別スペースを活用している。 ・医ケア児がいるクラスでは集まりで座位保持椅子を並べると狭い。 ・各クラス定員10名だが、親子やきょうだいが入ると狭く感じる。7、8名が限界だと思う。 ・肢体不自由児のスペース、保護者のスペースを考慮すると定員10名過ぎには狭い。 ・10人定員に対して少し狭いように感じる。 ・人数に対して狭い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年身体的なケアを要する児童も増加している。児童の状態や安全を考慮したクラス編成、人員体制を検討しているが、多様な状態の児童が同一クラス内で生活していくことに伴い、スペースの使い方や活動のプログラムを調整している。医療的ケアやそれに準じるケアを要する児童のクラスにおいては、安全面を考慮した児童数とスタッフ人員の編成が必要になる。
	②	職員の配置数は適切である	14 (82%)	3 (18%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・職員がもっと配置されていたほうが安全かつ良いサービスが提供できる。 ・3~4人でクラス内の療育をできるように考えながら取り組んでいるがフォローや片付け等に人手不足を感じることもある。 ・フリースタッフにも必要に応じて入ってもらっている。 ・きょうだい児がいる時は、フォローしてもらえ人員が必要。 ・10人定員に職員3人体制になっているが3人では難しく4人入っていることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記のようにスタッフ個々に工夫を凝らして実践している。 ・医ケア児や未歩行の児がいるクラスは特にスタッフ数の確保が必要になるため、これからもフリー職員の配置調整などを実施していく。 ・小学校や幼稚園の長期休業中だけでなく、日々の療育でもきょうだい児をつれて登園する保護者は複数人いるため、きょうだい児の対応においても人員配置の工夫が必要になる。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	16 (94%)	0 (0%)	1 (6%)	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインになっているため、一人ひとりにあっているか細かく考える必要があるかもしれない。 ・最低限の構造化、ユニバーサルな構造化はしているが個別にはさらに工夫・改善が必要。 ・時間帯や登園人数、対象児に合わせて構造化している。 ・保育室Bの床は整備が必要。 ・ユニバーサルデザインとして構造化をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・狭いながらも子どもの特性や時間帯、活動内容に応じたバーテーションの活用や個別スペースの確保など安心して活動できる構造化を工夫している。小集団の中で一人ひとりに合わせた構造化や配慮は、今後も可能な限り物品や玩具などを工夫し、また職員の知識やアイデアも活かしながら検討していく必要がある。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	16 (94%)	1 (6%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市による床張り替え工事後も床が冷たく、保育室によっては床がつぎはぎになって段差があるため、活動によって危ない場面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・床の冷たさは毎年保護者からも意見が出ているため、活動に応じて畳やマットなどを使用し、より快適に活動できる環境作りに努めている。段差や素材の違いなどを改善するため、今後再度張り替え工事をするか検討していく。
	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7 (41%)	0 (0%)	10 (59%)		<ul style="list-style-type: none"> ・月1~3回の職員会議、月1回の療育会議を実施し、療育内容や業務についての問題を提起し、改善案を出し合っている。 ・指定管理運営第3期に入り、更なる療育の質向上に向け、卒園児にアンケート調査を実施し始めている。
業務改善	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の療育での改善点の抽出、設備関係の点検などについても、会議内で共有して、改善の方向性を確認していくようにしている。
	⑦	事業所向け自己評価及び保護者向け評価表を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	16 (94%)	0 (0%)	1 (6%)		<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価表結果をもとに職員と協議して改善案を作成し、3月に公表している。仙台市のアンケート結果をもとに全員で改善策をスタッフ請じて保護者の目に届きやすい壁に掲示している。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	9 (5%)	0 (0%)	8 (79%)		<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市の監査や法人の総会などで事業の評価（業務改善も含む）についても報告書等を提示している。 ・評議委員会において、活動の概要と課題を提示している。
	⑨	職員の資質の向上を行うために研修の機会を確保している	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の療育スキルの向上を求められるため、常勤・非常勤問わずに内部研修・外部研修の機会を設定している。 ・外部研修参加者は必ず会議等で伝達講習するようにし、職員間で共有できるようにしている。新型コロナウイルスの影響も軽減し、集団研修が増えてきたため、研修内容の幅も広がってきた。

適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> 作成会議を行い、皆で考えている。 事前に保護者にニーズを確認した上で児童発達支援計画を作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援計画は日々の療育内でのアセスメントだけでなく、保護者に子どもの様子を記載してもらい、家庭での様子や保護者の思い・意向を確認した上で、担当者が集まって作成会議を行い、多職種がチームとなって様々な視点から意見を出し合って作成している。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5 (29%)	2 (12%)	10 (59%)	<ul style="list-style-type: none"> 正式なアセスメントツールではないが療域それぞれを意識した療育記録として残している。 	<ul style="list-style-type: none"> 標準化されたアセスメントツールは使用していないが、特性を把握するシート等を活用し、アセスメントに活かしている。今後は情報が整理しやすく、記録を簡素化できるシートを検討していきたい。
	12	児童発達支援計画に「児童発達支援域内」の「オンラインの「児童発達支援の提供」」も「発達支援」「個人支援及び移行支援」「家族支援」「地域支援」でそれぞれ支援内容が子どもに必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	17 (100%)	0 (0%)	0 (7%)		<ul style="list-style-type: none"> 子どもの現状把握や進路先での課題を踏まえて具体的な支援内容を組み立てている。支援内容のフォームは、毎年見直しによりわかりやすく効率的な記載様式を工夫するように努めている。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> 3ヶ月に1回モニタリングがあるため見直す機会になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> クラス会議の中で支援計画を見直す機会を作り、支援計画に沿った支援が提供できるよう意識づけている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6 (35%)	0 (0%)	11 (65%)		<ul style="list-style-type: none"> クラス担任間で翌月の活動プログラムを検討し、その月の担当者が表にするなど、チームで話し合いながら立案している。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容は固定化しないように各クラス工夫して考えている。 同じ活動が続かないようにしたり、子どもの様子に合わせて少しずつステップアップしている。 それぞれ作戦会議をしてプログラム作成に生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達の課題と遊びのねらいを意識した上で、活動プログラムを作成している。遊びの広がり大切に、同じ遊びの定着をねらう、成長を確認してステップアップさせる等、成長過程に応じたプログラム内容を保護者と共有して進めている。内容の工夫については研修などの学習機会を増やしていきたい。 発達過程においては繰り返しのプログラムが必要になることもあり、その必要性については随時保護者に伝達しながら進めている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		<ul style="list-style-type: none"> 数年前から個人の特性に応じた個別療育も実施している。今後は特性と課題に配慮した個別活動を集団活動の中に汎用化していけるよう試みていきたい。 サンホームの小集団活動ならではの個別の取り組みを集団の中で実践・定着させる試みができる。そのメリットを効果的に実施できるようにしたい。
	17	支援開始前には、職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援内容や役割分担について確認している	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		<ul style="list-style-type: none"> 朝のミーティングではクラスごとの全体の流れと人員体制、使用道具などの確認と調整を実施している。また、子どもが登園する前の20～30分間、クラス内で打ち合わせを実施し、当日の段取りや役割を再確認している。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	16 (94%)	1 (6%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> 個別の記録を書きながら振り返り（活動内容、子どもの様子など）を行っている。 毎回必ず打ち合わせができるわけではないが、気づいた点は口頭やメモ書きで共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> 療育終了後にクラス担任全員で振り返りを実施している。活動全体の課題や子どもの行動の変化、気持ちの汲み取り、保護者からの相談事などを共有し、次の活動計画に生かしている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		<ul style="list-style-type: none"> 振り返りと記録を通して、子どもの成長の把握（モニタリング）を行い、支援の効果や修正等、支援内容の検討を行っている。
	20	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> 支援計画作成からおおむね3ヶ月後にはモニタリングを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援計画作成から約3ヶ月後にモニタリングを行うことで、現時点での取り組みの評価・見直しや、次回の支援計画作成にあたっての課題や取り組みの抽出などを行うことで、より質の高い支援計画となるよう努めている。
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		<ul style="list-style-type: none"> 子どもの状態像と支援の方向性に精通する職員として、クラス担任、主任、地域相談員などが参加している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	17 (100%)	0 (7%)	0 (0%)		<ul style="list-style-type: none"> アーチルや家庭健康課等と連携し、個別ケースのフォローアップを実施したり、地域相談員が保育所の相談支援やのびすく活動に参画したりしている。今後もアーチル等と有機的な関係性（パートナーシップ）をめざし、日頃から情報交換を密に展開していきたいと考えている。
	23	（医療ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> 必要時連絡している。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的を受診している児童については、その都度受診結果を共有している。医療機関などは、さらに連携を深めたいと考えているが医療機関側からネガティブな反応に対して、今後は病院側のソーシャルワーカーとの連携を密に展開していきたい。

関係機関 や保護者 との連携 関係機関 や保護者 との連携	24	(医療ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関と連絡体制を整えている	16 (94%)	1 (6%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・主にOTが訪問している。 ・OT・看護師が中心となり通院同行や訪問リハの見学などを行っている。また必要に応じて主治医と情報共有(提供)をしている。 ・病院への同行やリハの見学など少しずつながってきているが全員にいけるわけではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・OTや看護師を中心に通院同行や訪問リハ見学などの機会が増えており、顔の見える関係作りが進んでいる。今後もさらに連携や情報共有の機会をを広げ、連絡体制を整えていきたい。
	25	移行支援として、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		<ul style="list-style-type: none"> ・進路先の保育所(園)や幼稚園に支援内容や情報の引継ぎを実施している。進路先での適応状態の確認については3ヶ月目に電話フォローを行い、必要時保育所等訪問を実施している。卒園児フォローアップも定着し、施設との相互信頼関係も構築できたことからさらに支援を深めていきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	15 (88%)	2 (12%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度久々に就学する児(5歳児)が在籍しているため、これから小学校との連携が図れていくと思われる。 ・来年度小学校入学する児がいるため移行支援を行っていく。 ・就学に向けた勉強会を小学校に協力してもらって聞いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の小学校の校長先生に講師を依頼し、卒園児や地域の保護者を対象に就学における講演会を実施した。 ・今年度は卒園後に就学する子どももいたため、状態の引継ぎや療育中の様子を見て頂く機会を設けるなど、進路先の小学校教諭との連携を図っていった。今後も卒園児フォローアップとして連絡を取り合い、連携を深めていく予定である。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・療育見学に誘う等連携を図っている。 ・お子さんの様子を見学に行くこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市内の児童発達支援センターや県内の療育機関と日頃から研修や情報交換の機会を設けている。困難な事例についてはアーチルなど専門機関と連携を図っている。 ・効果的、効率的な連携の為に、情報共有を密にし、施設での支援の限界も開示しあい役割分担を実施していくことが望まれる、その共通認識をもつための会議をこれからも開催していきたい。
	28	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や障害のない子どもと活動する機会がある	5 (29%)	0 (0%)	12 (71%)	<ul style="list-style-type: none"> ・隣にある保育園にあそびに行くことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流保育として定期的に近隣の保育園へ行き、園庭やホールをお借りしたり、保育園の子どもたちと一緒にあそびや活動に参加する機会を設けた。今後も継続させていきたい。
	29	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加している	4 (24%)	1 (6%)	12 (71%)		<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援員を中心に泉区の子育て支援ネットワーク会議や情報交換会、障害者自立支援協議会などに定期的に参加し、地域とのネットワーク作りや情報共有を行っている。職員への周知も徹底していきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回の支援計画説明時、年2〜3回のクラス懇談会、父親等家族参観・懇談会のほか、随時個別面談を設けている。毎日の療育においても振り返りを実施し、成長の確認、課題の共有、認識のずれの解消などを心がけている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6 (35%)	0 (0%)	11 (65%)		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度もペアレントプログラム研修を受講した職員による「自己肯定感を育む」という内容で保護者勉強会(ワーク)を実施した。毎年時期や内容などを検討し、見直しを重ねている。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		<ul style="list-style-type: none"> ・入園前の見学時の説明やオリエンテーション時などに対象者の理解に合わせた説明を心がけていきたい。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の枠組み及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		<ul style="list-style-type: none"> ・今後も保護者の理解の仕方を考慮し、わかりやすく丁寧な説明を心がけていきたい。保護者の受け止め方が不十分、あるいは認識のずれが生じた場合は繰り返し、誠意をもって説明をしていきたい。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		<ul style="list-style-type: none"> ・子育ての悩みについては、クラス担任が中心となり相談を受けているが、場合によっては主任や園長、地域相談員、公認心理師が担当し助言している。日頃より保護者の不安な表情や困っている状況を早めに察知し、傾聴できるよう心がけている。
	35	父母の会を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5 (29%)	1 (6%)	11 (65%)	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会はないがブレイクタイム(保護者交流)や懇談会などで保護者同士のつながりがもてるように支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・療育内での保護者交流タイムや保護者勉強会を通して、保護者同士の連携づくりを支援している。障害の捉え方や子どもの成長の共有など、保護者同士が互いに気づき合えるよう心がけている。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応している	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		<ul style="list-style-type: none"> ・苦情申し立て・解決の体制については、オリエンテーションで丁寧に説明しているが、日々の療育では保護者の認識とのずれを最小限にできるようクラス担任のほか主任・園長も加わり対応している。 ・公認心理師による心理相談の機会を通して、療育を取り巻く家族関係の調整や保護者の前向きな子育てを支援している。
	37	定期的に会報を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5 (29%)	0 (0%)	12 (71%)	<ul style="list-style-type: none"> ・保健だより、図書だより・サンホームだより 	<ul style="list-style-type: none"> ・月ごとの会報や保健だより、法人の広報誌のほか、子育てや特性理解に役立つ参考本やコラムなども積極的に掲載している。

	38	個人情報の取り扱いに十分注意している	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		<ul style="list-style-type: none"> 入園時に個別情報の取り扱いの承諾書を交わしているが、日々の療育においてもその都度写真撮影やSNS使用についての注意など繰り返し説明している。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもに対してはアセスメントをとった上で写真や絵カードでコミュニケーションを図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真や絵カード、文字などの視覚情報を有効に活用しながらコミュニケーションを図ることを日々心掛けている。また、対象児によって手話やジェスチャーなども積極的に取り入れている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	16 (94%)	1 (6%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> 夏まつりや地域参加卒ありの研修等。 今年度は50周年記念として児童館と合同で夏まつりを行い地域に開いていった。 児童館との共催、夏まつり 今年度は夏まつりを行い、地域の方にも来ていただける機会になった。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は開設50周年に伴い、隣接する将監児童館との共催で夏まつりを開催し、多くの卒園児や地域住民が参加した。また、その準備として地域住民と花壇の整備なども行った。 保護者勉強会や療育見学会にも地域の保護者が参加する機会を設けており、参加者も増えてきている。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練を実施している	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		<ul style="list-style-type: none"> 子どもや保護者参加の避難訓練やプロウィルス感染を想定した対応訓練、職員の救急蘇生・AED使用訓練などを毎年実施している。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っている	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回は必ず行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもや保護者参加の避難訓練および消火器の確認は毎月行っており、防災備品の点検も定期的に行っている。また、児童館と合同の不審者対応訓練なども毎年実施しており、次年度の反省や評価を反映させながら取り組んだ。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> 看護師が対象児の表を作成、共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> 入園児に健康管理シートにより健康状態やかかりつけ受診機関、予防接種状況、服薬状況等の確認を実施し、園内、詳細はクラス内に共有している。また、てんかん発作時の対応やけがの適切な対処については、内部研修を毎年定例化して実施している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされている	5 (29%)	0 (0%)	12 (71%)		<ul style="list-style-type: none"> アレルギーマニュアルを作成した上で、看護師を中心にアレルギーに対する保護者への聞き取りを徹底し、個別シートを作成し運用している。食物アレルギー対応解除についても医師に書類を作成してもらった上で実施している。
	45	ヒアリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5 (29%)	0 (0%)	12 (71%)		<ul style="list-style-type: none"> 園内外に潜む危険場所のチェックなどリスクマネジメントの手法を通して内部研修している。今後さらに深めた研修内容にしていきたい。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	16 (94%)	0 (0%)	1 (6%)		<ul style="list-style-type: none"> 虐待防止・身体拘束適正化に関するマニュアルや研修が義務化されたことに伴い、指針やマニュアルを整備し、定期的に研修を行っている。今後も、虐待防止の研修の強化のほか、誤解を受けないような行動についても職員全体で共有していきたい。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3 (18%)	1 (6%)	13 (76%)	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーションで説明し、理解は得ているが計画には書ききしていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 虐待予防や身体拘束についてのマニュアル説明については新年度の集会にて周知している。職員全体が再認識できるよう努めたい。 保護者に対しては入園時に書類にて、身体拘束や自園での対応についての説明を行っている。